
疾風のような物語

ヨキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

疾風のような物語

【Nコード】

N5538E

【作者名】

ヨキ

【あらすじ】

この小説は執筆者による「ハヤテのごとく！」のIFストーリーでございます！ので、原作及び小学館とは全く関係ありません。もうまったく関係ありません！

プロローグへハヤテのごとくつてなあに？

ここは東京都練馬区郊外にある、いかにもご せんに出てきそうな
秀囲気をかもし出す倉庫。そこに縛られている少女と、二人の若い
男がいた。

「アニキ！俺たちついにやりましたね！」

「ああ！あとはこいつの家の番号を聞き、身代金を要求すれば一生
遊んで暮らせる！」

男はそういうと眠っていた少女をはたき起こす。

「おい？嬢ちゃん、痛い目見たくなかつたら家の・・・」ゲシッ！
「うおおおおー！！痛てえー！！！！」

少女は男の顔に蹴りを入れる。

「てめえ！兄貴に「黙れ黙れ黙れ！お前らは人質へのマナーという
ものも知らんのか？待遇をよくしろ！それにしゃべるな！ただでさ
え空気が悪いのにお前達がしゃべったせいで、空気が腐ってきてい
る！」

「・・・兄貴、何故こんな目つきの悪いガキを人質に選んだんすか
？」 「よく見てみる。金髪といたらもう金持ちのお嬢様という
見解しかありえんだろ？」

「さっすがアニキ「しゃべるなど言っているのがわからんのか？」

「てめえ・・・、アニキ、俺こいつのことやっちまっつていいですか
？」

「おお、そういえばお前は天性のロリコンだったな！」

「・・・否定はしませんけど。」

（いやいや、そこは否定しろよ！）

つつこむ少女の思い届かず、手下は少女へとゆっくり顔を近づけて
いく。（吐息が聞こえる、このままではあいつのためにとっておい
た私の初めてが・・・）

少女は身の危険を感じ、思いっきり叫んだ！

「ハヤテーーーー！！！」

そのとたん、突然倉庫のドアが開き、何かが高速で飛んできた。

「ぐほっ！！」

「おい、大丈夫か！これは、【石】！？」

手下に当たったもの、それは石だった。しかし石だって高速でとんで来れば兵器に値する。ので、みんなは絶対に真似しちやいけませんよ！

「お嬢様！大丈夫ですか？」

「おおハヤテ、私は大丈夫だぞ！」

「何を言っているんだ。まだ俺がいるぞ！」

すると少年は男の背後に素早く回り込む。

「お嬢様に手を出した罪は重いですよ？」

すると少年は男の首に手刀を加え、その意識を奪う。

「大丈夫でしたか？お嬢様？」

ハヤテの爽やかな笑顔により、ナギはときめいてしまった。

「ハヤテ・・・」ナギは目を閉じ、口を突き出す。

（お嬢様目をつぶってるな。きつと疲れて眠くなってしまったんだな！）

「ではお嬢様、早く帰りましょうか。」

「ハ、ハ、ハヤテのバカー！！！」

ナギ渾身のアッパーが炸裂！

「うっ、何故ですか？お嬢様〜」

~~~~~

そう、これは、主の為に命を懸けて戦う超コンバットなバトルストーリーなのである

## プロローグへハヤテのごとくってなあに？ (後書き)

どうも、ヨキです。初執筆です。緊張の極みです。読みにくいとは思いますが、頑張っかけていこうと思いますんでよろしくお願いします！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5538e/>

---

疾風のような物語

2010年10月28日03時53分発行